

占部家系図総覧

この系図は、占部貞保の次男末保の子孫、朝倉市の占部様と三男貞俊の子孫、宗像市上八の占部様、宗像市深田の占部様他のご厚意により写させていただいた系図に、筆者がわかる範囲の系図を書き加えたものである。

桓武平氏系図】

桓武天皇—葛原親王—高棟王・・・公家として京都に残る

└高見王—高望王—國香—貞盛・・・

賜平朝臣姓 └良兼—公雅・・・

└良将—将門・・・

└良文(村岡五郎)—忠通(村岡小五郎)・・・

└忠頼(村岡二郎)—将常

└忠常—常将—常永—常家(上総権介)—常時(明)—常隆—広常—良常

└常兼————└常綱(匠磋八郎)

| (従五位下下総権介)

└常房(鴨根氏) └常廣(逸見八郎)

└頼常(原氏) └常安(千葉六郎・臼井氏初代)—常忠(常則)—常好・・・

└常久

└常有(占部太祖なり)占部兼安→└

└常重—常胤—胤正—成胤—胤綱

| (従五位下下総権介) (従五位下千葉介下総守護職)

| └ ←└ 常重、伯父の常晴の養子となる

└常晴(時)—常澄—広常—良常

└常義(村澤氏)

└常遠(安西氏)

└常継(大須賀氏) ↓

【占部氏系図】

↓ 臼井常有

占部六郎兼安——安常

(占部太祖なり) ⊥胤安—時安—維安—賴安(維常)——常時

⊥師安	⊥重安(和田茂時・次郎・壹岐守・越前守)——宗安(右馬助・越前守)——安治(右馬助・越前守・童名弥三郎・親安・淨閑)——
⊥維忠	嘉元3年九品下後筑前国鞍手郡笠木城主となる 居城 鞍手郡笠木山 家紋は檜扇子桐流閉開扇子
⊥守常	⊥兼安 ⊥宗次(千葉三郎)

⊥実安(太郎)

⊥次郎

⊥三郎

⊥忠安———⊥弘安(右馬助)———安延(孫太郎・識安・右馬助・越前守・宗快)——盛延(弥六郎)——弘安(弥六郎)

(弥太郎・右馬助・越前守) ⊥忠宗(沼口次郎)

⊥弘尚(右馬助)

⊥貞安(信安・弘中三郎・大膳進・甲斐守・越中守)

⊥清安(岩松三郎・左近将監・越後守)鞍手郡下村に第舎す

⊥月潭和尚(承福寺開山)

⊥祐安(右馬助・伊豆守・越前守・宗月)———

⊥豊安(右馬助)———⊥尚安(弥六郎・豊治)———⊥尚持(弥六郎・右馬助)———⊥貞保(八郎・筑後守・九郎右衛門)———

⊥壹岐守・越前守 | 右馬助・甲斐守・越前守 | 母、宗像中務少輔氏繁娘 | 母、麻生形部少輔家助娘

| ⊥女 米多比出雲守正兼妻 | ⊥女 河津新四郎隆家妻(・・・1) | ⊥女 深川右京進貞國妻———⊥女 大森彦三郎妻

| ⊥女 占部藤兵衛旨安妻—藤兵衛重次 | ⊥貞康(平次郎・幼名定安)——治右衛門—時保(保正治郎左衛門)→系図A) | 後許斐左馬太夫氏備妻 | ⊥女 吉田甚五郎妻

| ⊥重安(弥七郎)——貞成(左馬助) | 下総守 ⊥内浦村在住 | ⊥女 石松兵部丞貞増妻 | ⊥女 有吉善兵衛妻

| | 左馬助・壹岐守 東郷在住 | ⊥→日向守 占部矩安の養子となる ⊥本木村在住 | ⊥女 埴生左衛門尉貞盛 | ⊥許斐八郎

| ⊥良安(弥八郎)——貞頼(弥九郎) | ⊥貞安(新五郎・幼名守安・源内右衛門尉)——⊥加兵衛(源六)——次郎助 | ⊥貞重(十郎)——貞一 | ⊥次郎兵衛(新三)

| | 左近将監 田島村在住 | ⊥女 早世 ⊥八並村在住 | 母、吉田奎之助頼兼娘 | ⊥女 ⊥許斐角兵衛

| ⊥女 吉田市助(貞久)妻 | ⊥重矩(弥五郎) | ⊥孫三郎 八並村在住

| ⊥女 許斐安芸守氏鏡妻 | ⊥貞居(五郎) | ⊥女四人

| ⊥安忠 乙野五郎 鞍手郡乙野在住 | ⊥女 吉田兵部少輔貞勝妻 | ⊥女 石松八郎左衛門妻—⊥加兵衛——⊥女 中山九郎兵衛妻 上八村住

| ⊥女 家臣岩松大煩豊茂妻 | | 村中住 | ⊥女 村中住

| ⊥女 ↓ | ⊥加兵衛

└女 大和左衛門慰信尚妻		女 安河内弥七妻—女 石松與左衛門妻—河野甚左衛門妻	└安河内八兵衛 安河内弥七養子			
└女 麻生摂津守家経妻			福岡住			
└盛祐(源三郎・孫三郎)戦死						
└豊廣(弥九郎) 山口五郎└豊保(弥九郎)——└豊行(弥九郎)一弥四郎└弥九郎一三右衛門一弥三郎一源蔵└平造(弥四郎)└女						
└明隠和尚 承福寺住僧	└女 石松源兵衛妻	牟田尻在住	└左三郎	└卯吉	└女	
└女 占部大膳進尚賢妻	└女 廣瀬次作妻	└女	└長三郎		└弥四郎—儀六	
		└弥重			└三之助	
尚賢—賢安—種安						

└守次(久内仁右衛門)——└女 遠賀郡鬼津若村四郎右衛門妻└吉左衛門						
豊福長賀婿養子 江口住 後本姓に戻る			└徳左衛門			
母、吉田秀時娘			└女子二人			
			└男子			
		└女 大森六右衛門妻└次右衛門 鐘崎住				
			└女 占部市郎右衛門妻			
			└女 江口村次郎右衛門妻			
			└平六 宮田村住			
			└平四郎 鐘崎住			
			└作右衛門 占部新左衛門養子 上八村住└			
└女 石松源四郎貞宗妻	└貞次(新左衛門)上八村庄屋└女 日並兵部卿妻 田嶋村住					
	↑		└新六 上八村住└源六			
			└土之助			
└末保(與太夫・次郎左衛門・四郎右衛門)└女 占部新左衛門妻	└養子 ←—————┐					
妻、吉田彦岐守長利娘	└女 薩摩住				(佐兵衛)一九朗次—末次郎—磯太郎—利安	
寛永5年十月亡三十八歳	└次郎助 元和四年八月生、同七年十月亡				//?	
	└次郎助 寛永二年十月生			└吉右衛門—藤吉 ←—————┐		
	└貞信(利安・與七郎・四郎右衛門)一秀安(弥兵衛=俊安の子)一九朗次—太吉—九朗次└弥平——└弥三次					
妻、播州姫路中村四郎兵衛宗矩娘	(別文献による：=?大三郎・彌兵衛・四郎右衛門)(伊安)寛永二十年生れ—治郎進=(?秀安)└武平—九平└一九郎—芳兵衛					
	↑(利安の養子へ・千葉を名乗り途中古賀家養子となるが復姓)			└徳次郎		
└女 小川弥八妻				└藤吉(吉右衛門養子)——┐		
				└をき 仙谷庄屋妻		

└貞俊(市左衛門・九郎右衛門)└俊安(虎吉・徳兵衛・忠右衛門)(末茂)┐└源之允(與八郎・兵太夫) 上八村住┐└茂平次(與八郎) 上八村岩野本屋敷に住└おせん

入道宗栢(末長)

妻、中村右京進守道(改、吉田河内守) 婿

└

└與次平

└喜与平

妻、吉田平左衛門貞勝娘

吉田九左衛門娘

└秀安(弥兵衛・利安の養子)

└秀保 ───→系図 B)

後妻、占部作右衛門娘

└女

└末次(兵太夫・市郎右衛門) 稲元村住└末廣(善助・市右衛門) 妻子無 病死

妻、大森六右衛門娘

└女 徳重村五十君伊兵衛妻

└女 遠賀郡今古賀村柴田惣左衛門妻└與三郎 上八村住┐

└女(お虎) 上八村 早世

└源之允(俊安養子) 妻田嶋村、後妻吉田氏┐

└市川新之允 稲元村にて病死 四十一才

└貞頼(貞保三女と婚姻養子)

└貞廣(喜作・九兵衛)(貞元)└女 原村太兵衛妻 死後忠右衛門に嫁ぐ└次郎兵衛(儀助) 福岡住└女

江戸にて死亡 妻は

└女

└占部姓に改

後、占部作右衛門に嫁ぐ└善四郎 上八村住

子供は作右衛門の子供に└六兵衛 東郷住

└妻、早川空七次女くに 後妻はヤス

└後妻、豊村才右衛門長女ヤス

└周平(妻、鐘崎屋リュウ)┐

└九郎(妻、中野良作の娘)┐満

└儀右衛門└恵七└吉十一└於現└養子 安兵衛 鐘崎屋中山空一郎三男└友次郎(鐘崎屋中山彦三郎三女磯乃の婿)└キクノ 中山徳雄妻

└婿養子、與十 江口村辻野貞平長男

└亀太郎(妻、高口市作四女ツタ)

└ヨネ 山脇秀雄妻

└市五郎

└トモ 中山清妻

└養女クニ(中山徳兵衛娘)

└八郎(戦死)

└安延(妻、服部クラ子、後妻伊藤八千代)

└武(妻、安部一泰娘初子)

└茂六┐

└佐五郎┐

└與助(右馬吉)┐

└市右衛門┐

└賢藏┐

└妻、田野村高橋平次郎娘

妻、田野村山口惣右衛門娘

妻、江口浦白石源四郎娘

妻、池田村榎野田中善七娘

妻、高倉村深田儀治郎娘

└與次郎(與右衛門)└與三郎(茂右衛門)└女 山田村花田善市妻

└女 東郷村中村但馬守妻

└女 田野村山口平造妻

妻、河東村薄

└女 池田村安部源五郎妻

└順平

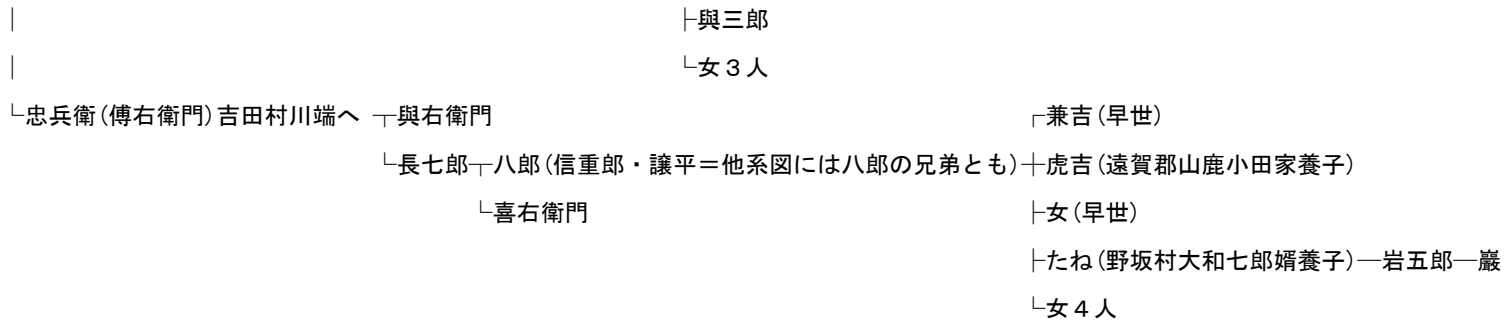
└女 勝浦村永島安五郎妻

└女 野坂村大庄屋徳七

└女 姫浜 萬屋文作妻

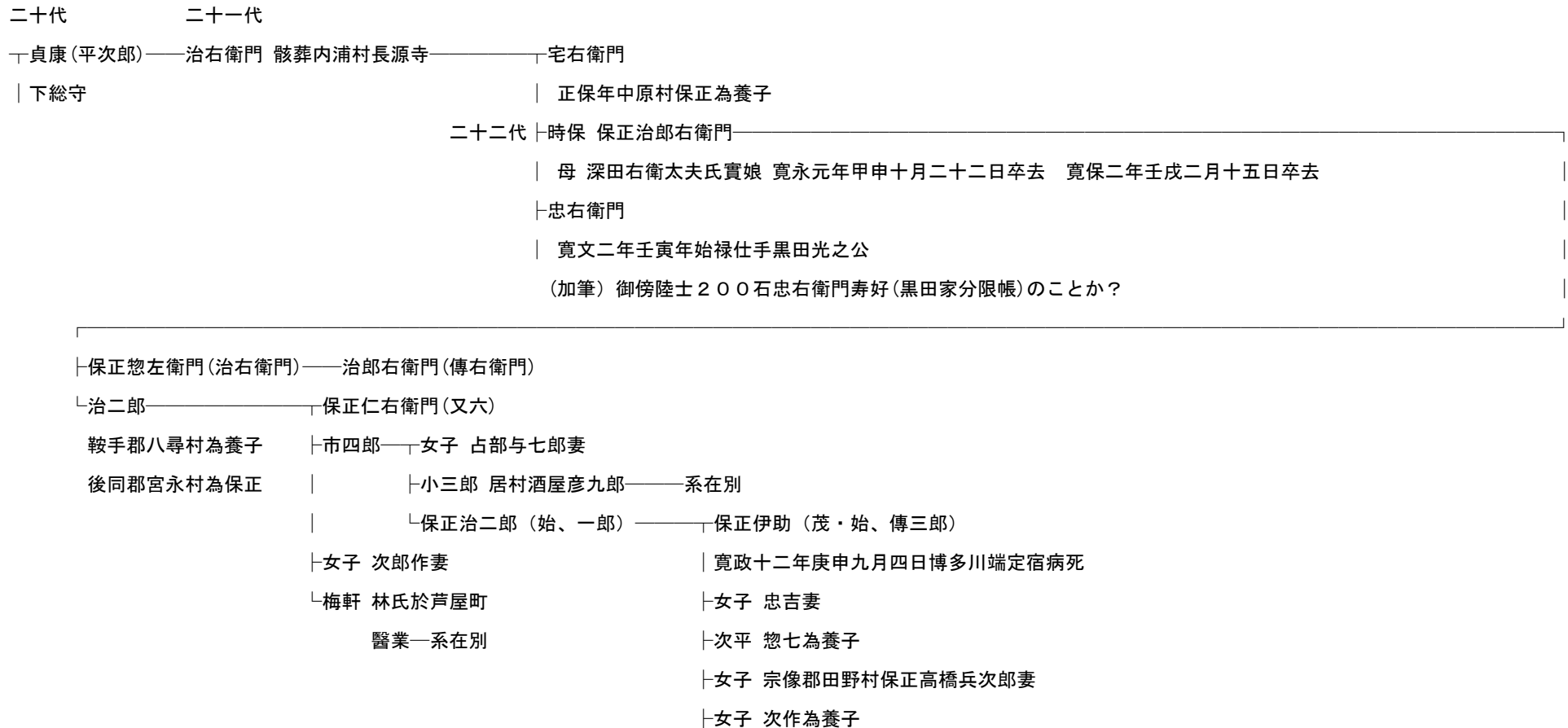
└辰市(妻、今古賀柴田勘内娘)

└彌六郎



平成23年7月追記 系図 A)占部下総守貞康系図

占部貞康は天文二年(1533年)二月に生まれた。平次郎、幼名は定安、後に氏貞の一字を受けて貞康と号する。尚安の次男だが、幼いうちに同族占部日向守矩安養子となった。下記系図は八並住占部様よりいただいたものである。系図中にある保正とは庄屋のことである。



└女子 保正市四郎妻
 | └←市四郎 (始、伊八)
 | 実は粟屋村木田氏
 | ←弥七郎 伊八弟 治二郎四男
 └女子 宗像郡田野村花田市助妻

平成24年8月追記 系図 B)占部忠右衛門俊安系図

占部八郎貞保は上八村(現宗像市上八)に居を構えて住んだ。貞保より三代、占部忠右衛門俊安は一時遠賀郡黒崎(現在北九州市八幡西区)に住んだがその子孫は八上村に続いた。秀勝の代に渡(現福津市渡)に出て、以後今日まで子孫が渡・津屋崎に残っている。この系図は渡占部氏のご厚意によりいただいたものである。俊安以前は上記系図と重複するため省略する。

占部八郎貞保(九郎右衛門・入道宗仙)―貞俊(市左衛門・九郎右衛門)―俊安(占部忠右衛門)―――貞秀(占部源之丞)與八郎(兵太夫)―茂平次(始、與八郎)

└市郎右衛門└市右衛門 妻子無 └秀安 占部利安の養子となる └與次平
 | └女 徳重村五十君伊兵衛妻
 └女 └與三郎 別居
 └源之助 俊安の為名跡を継ぐ
 └新之助 稲元村にて病死す

└昌安(占部四郎次)

└幸安(占部新六)

└秀勝(占部太郎次) 渡村入庄屋└秀長(占部傳藏)

└秀興(占部太郎次)└女 花田長右衛門妻

└興隆(太七)

└興之(伊八)

└興延(徳七) 津屋崎田代屋養子となる

└興廣(茂平)

└興光(幼名、伍市・太平・太平次)―興繁(幼名、喜太郎・太平・太平次)└女 津屋崎芹野周蔵に嫁す

└女 津屋崎花田貞助に嫁す

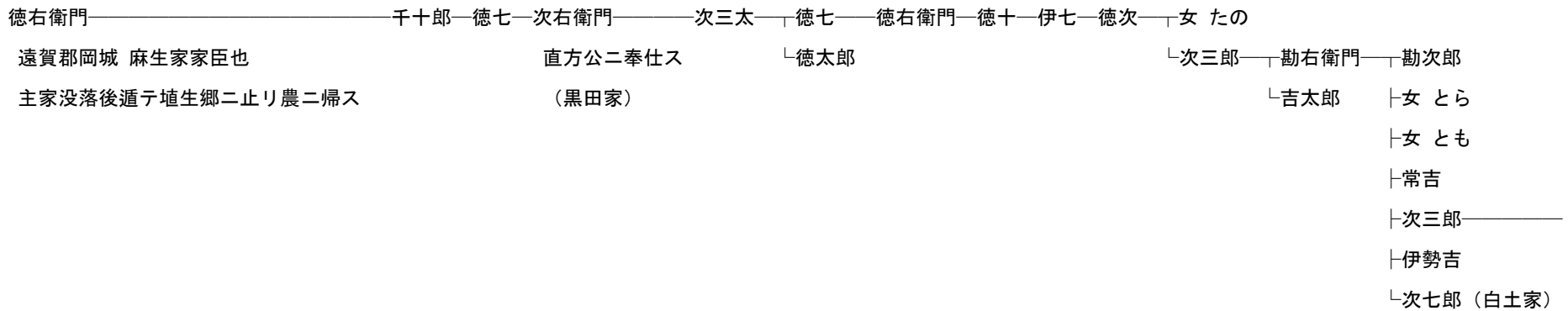
└重光(幼名、喜太郎・太平)└女 頓野村吉川監十郎に嫁す

卜重治(伍平) 卜重元(占部伍一)
 卜女 渡柴田徳太郎に嫁す 卜重亨(占部貫一)
 卜女 勝浦高向萬吉に嫁す 卜重利(幼名正太郎・占部真一)

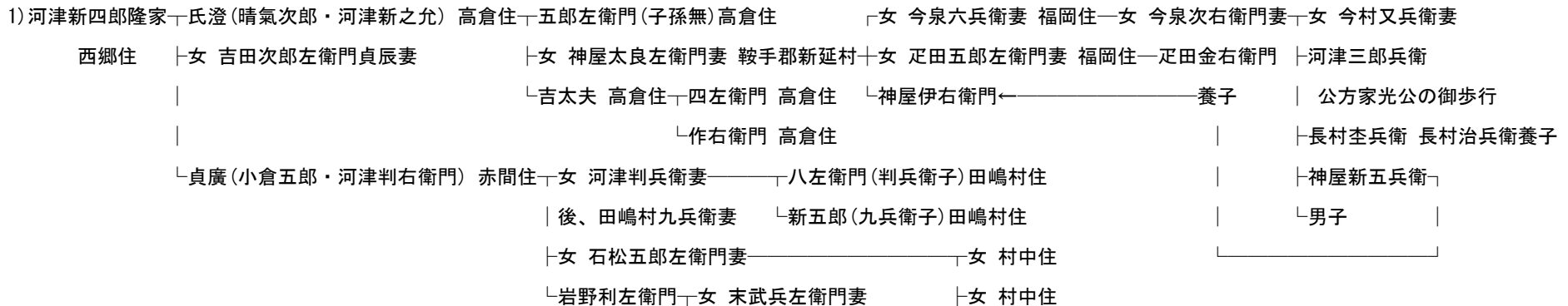
平成25年6月追記 系図C)遠賀郡岡城麻生家家臣の占部系図

この系図は現在北九州市八幡西区に在住の占部氏のご厚意によりいただいたものである。初代徳右衛門は岡城(現遠賀郡岡垣町吉木)の城主だった麻生家家臣とあるが、岡城主麻生隆守に仕えたのであろう。麻生氏はその所領の位置故に大家の覇権争いの狭間で翻弄され続けた。隆守を討ったとされる瓜生貞延に関しても誰の命により隆守を討ったのかについて、諸説分かれるところである。占部氏といえば宗像家家臣としての記録しか残らない中で、麻生家に仕えた占部家があったというこの記録は貴重な系図である。

初代



縁者の系図(1)——河津家系図



└河津善兵衛一基次郎

鞍手郡村中住

└石松與左衛門 福岡住一女 安河内弥七妻

└藤次郎 陵巖寺住└吉之允 陵巖寺住

└石松新五兵衛 福岡住

└以下男子二人

縁者の系図(2)――宗像家系図

宇多天皇の苗裔正三位中納言

宗像朝臣

└女 氏男室 山田村の地蔵菩薩 母山田の局

氏郷 ───└宗像氏定一興氏

└氏貞 中納言 母、陶晴賢娘

└宗像氏佐(氏國)└正氏(隆尚)└女 立花道雪室 母、同上

└氏統一氏男 ←──────────────────────────┘

└深田氏俊(美作守)──氏實└氏榮(深田中務少輔・判左衛門)

└女 占部甲斐守尚安室

└女 占部治右衛門妻

└女

└女 糟屋郡和白村清右衛門妻

[HOME](#) ≫ [占部氏](#) ≫ [占部家系図総覧](#)